

国際学術講演会

Geoglyphs and Society in Nasca and Palpa: Recent Advances in Archaeological Research. (ナスカとパルパの地上絵と社会：考古学研究の最前線)

【日 時】 2014年2月22日午後1時～5時

【場 所】 山形大学基盤教育222教室
山形市小白川町一丁目4-12

【定 員】 300名(先着順)

【参加費】 無料、申込不要

【主 催】 山形大学人文学部

【共 催】 国立民族学博物館 科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(研究代表者：国立民族学博物館教授・関雄二)、科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(研究代表者：茨城大学教授・青山和夫)、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「ナスカ地上絵の学際的研究における次世代研究者養成とネットワーク構築」(研究代表者：山形大学教授・坂井正人)

【協 力】 古代アメリカ学会

【使用言語】 日本語、英語(通訳あり)

【趣旨】

ナスカ・パルパ地域における最新の調査成果に基づき、この地域の社会の実態および地上絵をめぐる研究の最前線を提示する。ナスカ期だけでなく、その前後の時期に制作された地上絵、居住地、神殿、鉱山といった様々な遺跡調査から、当時の社会組織や環境変動の動態といった幅広いテーマについて論じる。また長年、地上絵の保護活動に貢献してきた楠田枝里子氏による特別講演も予定している。

【プログラム】

1:00-1:15

挨拶 北川忠明(山形大学)

特別講演

1:15-1:45

「ナスカと私」楠田枝里子(司会者、エッセイスト)

一般講演

1:45-2:35

"Climate Change and its Impact on Settlements and Geoglyphs in Palpa,
South of Peru"

「ペルー南部、パルパ地区における気候変動と居住地・地上絵に対する影響」

Markus Reindel (Commission for Archaeology of Non-European Cultures [KAAK])

マルクス・ラインデル (ドイツ国立考古学研究所)
(日本語通訳あり)

2:35-3:25

"Two Thousand Years of Ritual Practices and Religion in the Nasca region of Peru"

「ナスカの儀礼と宗教：2千年間の変化」

Christina A. Conlee (Texas State University)

クリスティーナ・コンリー (テキサス州立大学)

(日本語通訳あり)

3:25-3:40

休憩

3:40-4:30

"Nasca Society from the Periphery: New Perspectives from Villages and Mines. "

「周縁からみたナスカ社会：村落と鉱山からの新たな視点」

Kevin Vaughn (Purdue University)

ケヴィン・ボーン (パデュー大学)

(日本語通訳あり)

4:30-5:00

「ナスカの地上絵と社会変化」

坂井正人 (山形大学)

【問い合わせ先】

山形大学人文学部事務室

山形市小白川町一丁目4-12

電話番号 023-628-4203